

統合準備委員会ニュース第7号

平成14年(2002年)11月21日発行

竹見台小学校・南竹見台小学校統合準備委員会

委員長 田辺妙子

統合後の小学校名は『千里たけみ小学校』に！ アンケートにご協力ありがとうございました

11月13日(水)第8回竹見台小学校・南竹見台小学校統合準備委員会を開催しました。冒頭に教育委員会より、11月3日の新聞に掲載された竹見台小学校と南竹見台小学校の統合問題に関する記事で「小中一貫校」という表現がされていたが、正確には「小中一貫教育校」であり、小学校・中学校を合わせて一つの学校にするのではなく、あくまでも小学校・中学校の9年間を見通した教育を行う学校にする考えであるとの説明がありました。

前回の統合準備委員会の後、統合後の小学校の校名について竹見台小学校・南竹見台小学校・竹見台中学校の各家庭にアンケート調査を実施したところ、多くのご家庭からご協力いただきました。ありがとうございました。このアンケート調査では、新校名として、現在のどちらかの学校名を残す竹見台小学校、南竹見台小学校という案や、新竹見台小学校、千里竹見台小学校、若竹小学校、竹の子(たけのこ)小学校、竹見(たけみ)小学校、新千里小学校、竹見中央小学校などの様々な案が寄せられました。新校名を決めるにあたって、委員からは、

- ・現在のどちらかの学校名を残すことは、一方の学校が吸収されてなくなるような気になるので避けたほうがいい。
- ・ひらがなの校名は親しみやすい。
- ・ニュータウンの他の小学校には 台という名前がついているのに、竹見台という名がなくなるのは寂しい。
- ・竹見(たけみ)という名は残してほしいという思いがアンケートからも伺える。

などの意見が出され、最終的に「千里竹見台小学校」「たけみ小学校」およびこれら二つの名前を組み合わせた形の「千里たけみ小学校」の3つの候補に絞り、その中で最も賛成が多かった「千里たけみ小学校」とすることを決め、意見書に盛り込むことにしました。

次に、教育委員会に提出する意見書の内容について、前回に引き続いて検討しました。各委員が意見書(案)を持ち帰って検討してきた結果を報告しましたが、どの委員からも基本的な部分での反対はなく、意見書の内容として追加してほしいことや要望として次のような意見が出されました。

- ・小中一貫教育などソフト面の取組みの実施時期や年間を通して国語・算数・理科で少人数指導を行うことについても明記してほしい。
- ・小中一貫教育を行うのであれば、中学校の設備の整備も行ってほしい。
- ・校舎やトイレを改修するにあたっては明るい色調になるようにしてほしい。

- ・ 子どもたちが仲良く遊んだり学んだりできる環境づくりを行ってほしい。
- ・ 教員の加配が続くようにしてほしい。
- ・ プールの移設年度を具体的に示してほしい。
- ・ 低学年教員補助者を配置してほしい。
- ・ 小中一貫教育の取組みの内容として、すぐにできることもあれば時間がかかることもあるので、小中一貫教育がめざす内容という表現のほうがよい。
- ・ 来年度には教員の異動もあるので、市全体の教職員に理解をしてもらうようにしてほしい。

また、その他に「大学の研究者や教育委員会指導主事、保護者代表なども含めた運営指導委員会は、どのような形でいつから始まるのか」「運営指導委員会には小・中学校の教員も入るのか」「運営指導委員会よりも支援委員会というような名称の方がいいのではないのか」「校舎の改修工事を実施する際に、シックハウス対策はどう考えているか」「セキュリティ面で職員室と教室を結ぶシステムはどうか」「将来児童数がさらに減少したときに、他校の校区を組み入れるということはあるのか」「統合問題については方向性が見出せたと思う。今後、使わなくなる校舎の跡利用の問題があるということは認識しておいてほしい」「地域行事などに使用する資材や道具を現在小学校の空き教室に置いているが、改修工事が実施される間の置き場所を確保したい」「教員の加配がなくなっても小中一貫教育は続けていくのか」といった質問や意見などが出されました。教育委員会からは、「運営指導委員会の名称については拘っていない。小・中学校の教員も入ってもらい来年度のできるだけ早い時期に設置したい。大学の先生にも継続して入ってもらえるようにしたい。保護者代表についてはどういう形で入っていただくか相談させてもらう」「シックハウス対策の重要性は認識している。最大限注意を払いながらやっていきたい」「セキュリティ面については、小学校には非常ベルとともに、職員室から府警本部に直接通報できるシステムを設置している。また、緊急時には火災報知機を使用することの許可も出ているので、それらの対策で対応したい」「10年後20年後の児童数については予測できないが、現時点では他校区を組み入れるということは考えていない」「資材等の置き場所については今後相談したい」「教員の加配がなくても小中一貫教育は続けていく」といった回答がありました。

今回各委員から出されたこれらの意見も踏まえながら、最終的に教育委員会に提出する意見書を取りまとめました。統合後の学校の校歌や校章については、今後の課題として学校を中心に検討が進められる予定です。

意見書は11月18日に教育委員会に提出しました

統合準備委員会において取りまとめた意見書は、11月18日(月)に田辺委員長、村瀬副委員長、香坂副委員長が吹田市教育委員会に提出し、市長と教育長に意見書の内容が十分尊重されるよう要望しました。市長と教育長からは十分尊重していきたいとの返事をいただきました。

統合準備委員会における検討は第8回をもって終了といたしました。ご協力いただきありがとうございました。